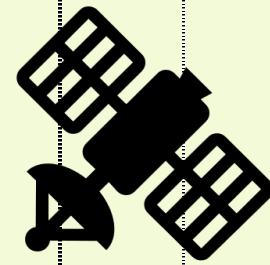
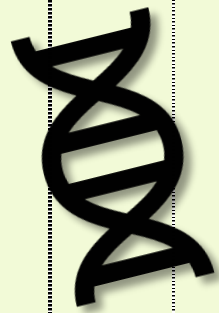


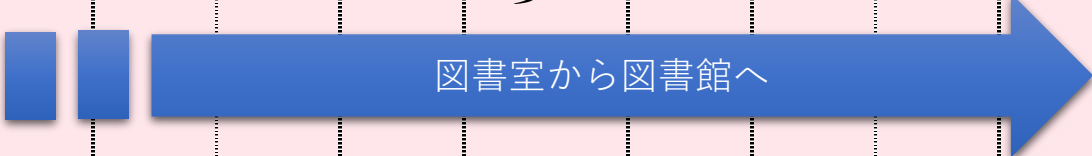
～1979

西暦	1907	1911	1919	1922	1927	1946	1948	1949	1953	1967	1969	1970	1973	1974	1976	1977	1978	1979	
和暦	明治40	M44	大正8	T11	昭和2	S21	S23	S24	S28	S42	S44	S45	S48	S49	S51	S52	S53	S54	
科学関係（主に工学分野の事柄）	フランスで最初のヘリコプター飛行	ラザフォード、原子の有核模型を提唱		宇宙膨張を表すフリードマン方程式が提唱される	ハイゼンベルク、不確定性原理を提起	電子計算機ENIAC完成	トランジスタが発明される	湯川秀樹、日本人初のノーベル賞（物理学賞）を受賞	DNA二重らせん構造の発見		アポロ11号が月面着陸				超音速旅客機コンコルド就航	宇宙探査機ボイジャー一号打ち上げ	「The C programming language」出版	宮城県沖地震発生	スリーマイル島原発事故
東北大学・工学部等関係部局	東北帝国大学設置		東北帝国大学工学部設置（片平）	アインシュタインが本学を訪問				新制・東北大学発足	大学院工学研究科設置	工学部 片平から青葉山へ移転（※）	大型計算機センター設置	※1964（昭和39）～1969（昭和44）							
附属図書館・工学分館		図書館設置（現・本館）	各学科図書室で閲覧・貸出等サービス実施							工学部中央図書室開設（青葉山）		工学部事務部内に図書掛設置	附属図書館本館が片平キャンパスから	農学部分館設置			工学分館設置（所在は管理棟）		



当時の風景は裏面のパネルをご覧ください。

この頃の開館時間は、平日9:00-17:00、土曜9:00-12:00。図書の貸出は一人3冊まで、期間は1週間でした。



●自然科学の出来事から、特に工学に関連深い事柄を掲載しています。
●一部の事柄の年については諸説ありますが、複数の資料から判断しました。

2000～

西暦	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	
和暦	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	
科学関係（主に工学分野の事柄）	2000年問題 白川英樹、ノーベル化学賞 本田のヒューマノイド・ロボット、ASIMOが公開	メタマテリアル作製成功 iPod発売 Wikipedia誕生	野依良治、ノーベル化学賞 小柴昌俊、ノーベル物理学賞 田中耕一、ノーベル化学賞	ヒトゲノムの解読完了	グラフィエンの分離に成功	世界最大の旅客機エアバスA380が初フライト	マンシヨン耐震偽装問題が話題に 冥王星が準惑星に	ブルーレイのソフトとプレイヤーが発売 iPhone発表	初音ミク誕生	南部陽一郎、小林誠、益川敏英、ノーベル物理学賞	下村脩、ノーベル化学賞 3Dプリンターの特許が失効し、メーカー参入が相次ぐ
	東北大学・工学部等関係部局		情報科学センターが大型計算機センターに改組		工学部の学科再編 国立大学法人化 環境科学研究科設置		工学研究科総合研究棟竣工		東北大学創立100周年		サイバーサイエンスセンターに改組 医工学研究科設置
	附属図書館・工学分館		ウェブで利用状況照会が可能に 2階図書フロアの遡及入力完了		自然科学分野全バックファイル導入 Web of Science		自動貸出装置導入		全館の照明を人感センサー型に改修 キャンパス間資料搬送サービス開始 （※正式運用は2007年から）		電子ブック導入 eDDS（電子文献デリバリーサービス）開始
	BLinside webの導入		ウェブで利用状況照会が可能に		自然科学分野全バックファイル導入		自動貸出装置導入		全館の照明を人感センサー型に改修		電子ブック導入
	BLinside webの導入		ウェブで利用状況照会が可能に		自然科学分野全バックファイル導入		自動貸出装置導入		全館の照明を人感センサー型に改修		電子ブック導入
	BLinside webの導入		ウェブで利用状況照会が可能に		自然科学分野全バックファイル導入		自動貸出装置導入		全館の照明を人感センサー型に改修		電子ブック導入
	BLinside webの導入		ウェブで利用状況照会が可能に		自然科学分野全バックファイル導入		自動貸出装置導入		全館の照明を人感センサー型に改修		電子ブック導入
	BLinside webの導入		ウェブで利用状況照会が可能に		自然科学分野全バックファイル導入		自動貸出装置導入		全館の照明を人感センサー型に改修		電子ブック導入
	BLinside webの導入		ウェブで利用状況照会が可能に		自然科学分野全バックファイル導入		自動貸出装置導入		全館の照明を人感センサー型に改修		電子ブック導入
	BLinside webの導入		ウェブで利用状況照会が可能に		自然科学分野全バックファイル導入		自動貸出装置導入		全館の照明を人感センサー型に改修		電子ブック導入
	BLinside webの導入		ウェブで利用状況照会が可能に		自然科学分野全バックファイル導入		自動貸出装置導入		全館の照明を人感センサー型に改修		電子ブック導入

受賞後に田中さんが初めて工学部を訪れた際、管理棟前のスペースは田中さんを目見ようと集まった大勢の学生・教職員で埋めつくされました。

炭素（＝カーボン）原子が網目のように六角形に結びついてシート状になっているもので、夢の新素材ともいわれています。

現在の学科／専攻名は、主にこのときから



日本の大学で真っ先に全ファイルを導入しました。

川内キャンパスの萩ホールは、元は創立50周年記念建造物で、「東北大学記念講堂」「松下記念会館」と呼ばれていました。100周年を機に大改修が行われ、基本構想並びに設計監修を阿部仁史氏（建築学科・S60卒）、音響設計を電気通信研究所の鈴木陽一教授（電子工学科・S51卒）が行いました。

世界最大級の蔵書を誇る大英図書館のデータベースの検索、複写取り寄せが可能になりました。

学術雑誌電子化の時代

2010～

西暦 和暦	2010 H22	2011 H23	2012 H24	2013 H25	2014 H26	2015 H27	2016 H28	2017 H29	2019 H31
科学関係（主に工学分野の事柄）	<p>根岸英一、鈴木章、ノーベル化学賞</p> <p>ドバイに世界一の超高層ビル完成</p> <p>探査機「はやぶさ」帰還</p> <p>東日本大震災発生</p> <p>スペースシャトル計画 最後の飛行</p> <p>ゼオライトの製造技術の進歩</p> <p>山中伸弥、ノーベル医学生理学賞</p> <p>日本全国完全デジタル放送切り替え完了</p> <p>東京スカイツリー竣工</p> <p>CERN、ヒッグス粒子の強力な証拠を発見と発表</p> <p>ゲノム編集ツール「CRISPR/Cas9」が実用化</p> <p>STAP細胞に関する騒動</p> <p>赤崎勇、天野浩、中村修二がノーベル物理学賞</p> <p>梶田隆章、ノーベル物理学賞。大村智、ノーベル医学生理学賞</p> <p>ソフトバンク、Pepper発売</p> <p>重力波が初めて直接検出される</p> <p>半世紀ぶりの国産旅客機MRJが初飛行に成功</p> <p>AlphaGoが韓国人プロ囲碁棋士と対戦して勝ち越し</p> <p>大隅良典、ノーベル医学生理学賞</p> <p>Oculus Rift（VRヘッドマウントディスプレイ）が話題を集める</p> <p>チャットボットが普及し始める</p>	<p>工学研究科では建物被害の大きかった電子・応物系、マテリアル・開発系、人間・環境系の3つの研究棟が、2014年までに建て替えられました。</p>	<p>工学部100周年</p>	<p>環境科学研究科 本館完成</p> 	<p>地下鉄東西線開業</p> <p>分館前の工学部中央バス停は、それまで大勢の方に利用されていましたが、地下鉄開業により仙台駅方面の路線が廃止され、本数が激減したことから、大きく様子が変わりました。</p>	<p>東北大学・工学部等関係部局</p> <p>BOOKオープン</p> <p>センタースクエア（中央棟など）竣工</p> <p>災害科学国際研究所設置</p> <p>2014年に研究棟ができるまで、工学分館の旧視聴覚室を某研究室の部屋として提供していました。</p> <p>校友歌「緑の丘」（小田和正）</p>	<p>附属図書館・工学分館</p> <p>エレベーター更新。3階まで行けるように</p> <p>無線LANサービス開始</p> <p>グループ学習室開設（旧館2階）</p> <p>以前は2階まででした。</p> <p>以前は館内でのノートパソコン等の使用は、タイピング音が他の利用者の迷惑になるとの理由からあまり歓迎していませんでしたが、スマホ・タブレット等が普及してきた頃から端末を使った自習が一般的になり、無線LANのほか、コンセントタップを設置するなど、対応を進めています。</p> <p>本館全面リニューアル</p> <p>自動貸出装置が24時間利用可能に</p> <p>Abelujō設置（旧館1階）</p> <p>2013年に創設された工学教育院の関連設備として整備されました。</p>  <p>新青葉山キャンパスに農学分館（青葉山コモンズ）開館</p>		
電子書籍化、情報のオープン化の時代									



関連書籍を紹介中



関連書籍を職員による説明付で紹介中